

平成28・29年度 沖縄県教育委員会研究指定  
学力向上推進研究モデル校 研究報告会(最終報告)



2月1日(木)16:00から、本校が2年間取り組んできた独自の学力向上システム“Gサイクル”の研究報告会を教育庁県立学校教育課普通教育班仲宗根勝班長と黒島直哲指導主事ご臨席の下に実施することができました。

当日は、県下18校21名の先生方も出席されたことに、驚きとともに関心の高さに身が引き締まる思いがしました。

さて、今後の「グローバル・知識基盤社会」と「少子高齢化社会による様々な課題の頻出」「急速なICT化によるコミュニケーション環境の変化」等で生き抜いていける生徒を育

てていかなければならない使命が現在の高等学校には課せられています。さらに、こうした変化の激しい不確実な時代を生き抜く子どもたちには、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が求められます。



そのためには、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力

・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性等の涵養が重要となります。

このことは、まさに本校の創立当初からの教育目標「人間性豊かで、逞しい身体、優れた知性をそなえた新しい時代に対応できる創造性・国際性に富む人材の育成を目指す」の実現が試

されるべきであり、「志を高く、ひたむきな努力を！！」の本校のキャッチフレーズが目指すところと大いに合致するものと考えます。

本発表は、研究主任の山口栄臣教諭と副主任の安里盛孝教諭が発表の重責を担い、進路指導部主任の西里英篤教諭が司会を担当しました。

職員が一丸となって研究、実践を重ねてきた“Gサイクル”の構築は現在の高校教育における喫緊の大きな関心事である「高大接続改革」の「大学入学共通テスト」「学習指導要領改訂」に対応する大きなヒントにもなり得るものだと確信をするとともに、さらなる今後の発展と充実に気持ちを新たにしたところであります。